

東大 2019 年解答速報

※これは TA による受験生が高校世界史の知識で書くための答案です。

第 1 問

東アジアでは、中華思想に基づき、中国王朝が周辺諸国の首長に位階を与えてその地域での支配を認める冊封体制が伝統的にみられた。15世紀には李氏朝鮮やベトナムの黎朝、琉球や日本の室町幕府などが明に朝貢を行い、冊封を受けた。これによって国内での権威や支配を強化する首長もみられた。17世紀半ばに明が滅亡して清が台頭すると、朝鮮は清を夷とみなし、自らが明の正統な後継者であるとする小中華思想を掲げた（史料A）。史料Cに記されているように、明との貿易で栄えていた琉球は、日本の薩摩藩の支配下となった一方で清との関係も継続し、日中両属の状態となった。19世紀に西欧諸国が東アジアに進出すると、条約に基づく主権国家体制が持ち込まれた。清はアヘン戦争などで敗れると、これに組み込まれて冊封体制が動揺した。ベトナムの阮朝はフランスの進出を受けつつも清との関係を保ち（史料B）、清がベトナムの宗主権を主張すると、フランスとの間で清仏戦争が発生した。これに敗れた清はベトナムの宗主権を失った。日本は明治維新において西欧の外交方式をいち早く取り入れ、琉球を沖縄県として編入した他、朝鮮と日朝修好条規を結んでこれを開国させた。これに対して、清は壬午軍乱など朝鮮での内乱に介入して宗主権の維持を図った。しかし、日清戦争に敗れると、下関条約で朝鮮の宗主権を放棄し、中国王朝を中心とした東アジアにおける冊封体制の崩壊は決定的となった。（597字）

第2問

(1)

(a) 匈奴は月氏を破って中央アジアの交易を独占し、前漢の高祖との抗争を有利に進めるなど、冒頓単于の下で全盛期を迎えた。(56字)

(b) 清末の混乱の中で独立の気運が高まり、辛亥革命の後にモンゴルとチベットは独立を宣言したが、中華民国はこれを認めず、ソ連の援助を受けた外モンゴル以外は独立を達成できなかった。(85字)

(2)

(a) フランスの援助の下、エジプトにスエズ運河が建設された。1875年にイギリスがインドとの関係強化を目的にこの株式を買収すると、ウラービーはイギリスの支配強化に対して反乱を起こしたが、イギリスはこれを鎮圧し、エジプトを事実上の保護国とした。(115字)

(b) 19世紀半ばの金鉱の発見を機に入植が急速に発展した。20世紀に入ると白豪主義の採用によりヨーロッパ人以外の移民は排除された。(60字)

(3)

(a) ワスプが社会の中心となり、保守化が進んだことで、1924年の移民法により東欧・南欧系移民が制限され、アジア系移民は実質的に禁止された。また、KKKの復活など黒人への組織的迫害も見られた。(90字)

(b) アメリカがテキサスを併合するとアメリカ＝メキシコ戦争が勃発し、これに勝利したアメリカはカリフォルニアなどを獲得した。(58字)

第3問

- (1)ソロン
- (2)墨家
- (3)コルドバ
- (4)ガザーリー
- (5)全真教
- (6)トンブクトゥ
- (7)考証学
- (8)バーク教
- (9)マルサス
- (10)フロイト